

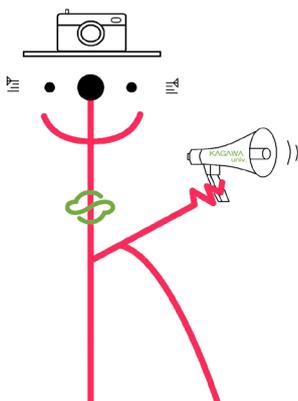
令和2年10月29日

香川大学医学部附属病院は、植込型補助人工心臓管理施設に認定されました (県内では唯一、四国では愛媛大学医学部附属病院と当院のみ)

2020年1月1日付けで香川大学医学部附属病院は、植込型補助人工心臓治療関連学会協議会から『植込型補助人工心臓管理施設』として認定されました。県内では唯一、四国では愛媛大学医学部附属病院につき2施設目になります。

心臓の機能が低下し、日常生活に支障をきたす状態を慢性心不全と言います。近年、慢性心不全患者は増加しており2020年に120万人に達するとされています。その中で最適な心不全の治療を行ったとしても難治性心不全の患者さんに対して心臓移植が選択されます。心臓移植の適応と判断されるためには、日本循環器学会の心臓移植委員会において適応と判断され移植待機への登録が必要となります。現在、心臓移植を待機しておられる患者さんの約9割に植込型補助人工心臓が装着され、移植まで平均1200日を超えております。したがって、現状では心臓移植の適応になる患者さんが植込型補助人工心臓の適応となっています。

香川県におきましては、心臓移植の適応となる患者さんに対して昨年までは県外の植込型補助人工心臓植込み実施施設にて手術が行われ、術後も心臓移植までその地域で生活をする必要がありました。そのため患者さんやご家族に多大な負担が強いられておりました。この度、当院が植込型補助人工心臓管理施設に認定されたことで人工心臓駆動中の全身管理が当院で可能になったため、患者さんは植込み手術後に自宅に帰り今までの仕事を続けながら心臓移植を待機することが可能になりました。今後、心臓移植の必要となる重症心不全患者の命を守る大きな治療選択肢を得ることができましたので、当院が県民の皆様、近隣の他県の皆様のお役に立てればと考えております。



➤ 問い合わせ先

香川大学医学部 循環器・腎臓・脳卒中内科学 准教授・野間 貴久

TEL : 087-891-2150

E-mail : noma@med.kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合

香川大学 医学部 総務課広報・法規担当

立石 晃一 (8時30分～17時15分)

TEL : 087-891-2008

E-mail : kouhou@med.kagawa-u.ac.jp